

平成 29 年 8 月 10 日

越谷保育専門学校  
校長 山崎美美夫

### 平成 29 年度学校関係者評価報告書の公表について

学校関係者評価委員会による本校の「平成 29 年度学校関係者評価報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版 Ver4.0 を使用しました。

平成 29 年 8 月 1 日

越谷保育専門学校  
校長 山崎芙美夫 様

越谷保育専門学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 山田 陽子

## 平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会において実施した「平成 28 年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：山田陽子委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 認定こども園わかばの森園長
鶴見 秀海	埼玉県立越谷東高等学校長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
中島新太郎	元埼玉県吉川市立北谷小学校長、元吉川中央公民館長
山田 陽子	十文字学園女子大学 人間生活学部幼児教育学科長 教授

(五十音順)

#### 2 学校側事務局

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長
会田 秀樹	同 学科長
古塩 秀明	同 事務長
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
菊地 秀典	同 事務長代理

3 委員会開催状況

日時：平成 29 年 7 月 3 日（月） 午前 9 時 15 分～午前 11 時 15 分

会場：越谷保育専門学校 201 教室

参加委員：上記委員 7 名、学校側事務局 7 名

4 委員会次第

開会

(1) 委員の紹介

(2) 校長挨拶

(3) 議長選出

(4) 協議

ア 学校概要の説明

イ 学校関係者評価の進め方の説明

ウ 「平成 28 年度自己評価報告書」に対する評価の実施

エ 学校関係者評価の総評と意見交換

オ その他

(5) その他

ア 次回の開催予定

イ その他

閉会

5 学校関係者評価結果

別紙のとおり

別紙

## 平成 29 年度越谷保育専門学校 第 1 回学校関係者評価報告書

平成 29 年 7 月 3 日

### 1 学校概要の説明

本校は幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格が取得できる教員養成機関であると同時に、指定保育士養成施設であります。今年度の入学式が第 48 回となりました。現在は第一部幼稚園教諭保育士養成学科 100 名定員の 1 学科となっています。

### 2 学校関係者評価の進め方の説明

基準 1 から基準 10 に分けられた項目を今回は基準 1 から基準 3 まで一括審議、基準 4、基準 5、基準 7 を重点的に審議し、その後、基準 6、8、9、10 について説明します。

特に、評定が 3 以下のチェック項目について事務局から説明し、委員から質疑応答、意見交換、総評、提言等を行います。

### 3 「平成 28 年度自己評価報告書」に対する評価の実施

#### 1 学校の理念、教育目標

・特になし

#### 2 本年度の重点目標と達成計画

・特になし

#### 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

##### 1-1-3 【理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか】評定 3

(委員) 今後の改善方策で『他の養成校の実践事例を研究する。』とはどのような取り組みか。

(学校) 教育実践発表会などで学生にゼミ等の研究した分野を発表させるところがある。それを冊子にまとめるという試みがある。

(委員) 成功している専門学校もあると思う。参考にされているのか。

(学校) ここ数年来、横のつながりが増えてきており、親密に関係を深めている。昨年度 彰栄保育福祉専門学校、道灌山学園保育福祉専門学校などに来校していただき、本校のオープンキャンパスにて説明をしていただいた。横のつながりができたことでいろいろと相談できるようになった。本校募集担当が各養成校と連絡をとり、学生募集関係やカリキュラムの変更含めて不備がないように進めている。ただし本校の特色を出さないといけないが、その中でも他校の良いことは導入をする。他校の実践例を十分理解したものが出来ていると思われる。

また、昨年に行われた保育士養成協議会に参加し、全国の様子・状況等の資料を回覧し、情報を共有した。今年も同じように聖徳大学で行われる保育士養成協議会への参加を予定しており、教職員に回覧等で情報共有していきたいと考えている。

**(委員)** 実践力がもっと必要なのではないかという課題が出ていて、1-1-3の現状の取り組み状況の中で実習体験やピアノ放課後サポートレッスン、キャリア教育講座などに取り組んでいる。実習体験を1年生で5回実施していることは他にはない強みではないか。ピアノの放課後サポートレッスンは時間がない中で行っている。

他に実践力を高めるために考えられることはあるか。

**(学校)** ピアノに関して言えばサポートレッスン参加者はいつも同じ学生であるのが課題です。強制ではない中で行っているがそこが課題となっている。単位が取得できれば終わりではない。現場ではそれ以上が求められるのに、学生には、実感が湧かない。実習体験でもできるだけ部分実習を実施できるようにお願いしている。学校の学びと実習体験で、実際にやってみる、両輪で進んでいけるように幼稚園に働きかけていく必要がある。やってみることで学生は足りなかったことを感じ取ることができる。現場でやってみて反省して気付いて進めることになるので、そのような取り組みは必要になるのではないかと思います。

**(委員)** 今後の改善対策のなかで大事なことだと思う。実践力をつけることがなぜ必要なのか、学生に伝えていかなければならない。実践力をつけた学生が、附属幼稚園等で行う。それを他の学生も見ても自分がその立場だったらと考える。実習と実践力をつけることに繋がるのではないかと思います。

**(委員)** 先ほど入学生が減っているという話がでていますが、この学校がどう生き残っていくかを考えていかなければならない。問題が出てきている中の一つがピアノの単位修得のみに甘んじている学生がいること。個人差、個人指導をどう進めていくのか、今後どういった方針で、指導していくかを突き詰めていかなければならない。方法論ばかり並べただけでは学生はついて来ない。そういう学生が、意欲がない学生へ繋がっていく。そのような学生を指導して、力をつけさせていくかということまで考えていかなければならない。

## 基準2 学校運営

### 2-3-1 【理念等を達成するための事業計画を定めているか】 評定3

**(学校)** 単年度の事業計画については予算編成等で定めているが、学校として中期的計画は定めていない。改善策として単年度事業計画を踏まえた上で、教育成果の向上と財政基盤の安定を目指した中期計画を作成する必要があるということで評定が3になっている。今後、中期計画について、十分に検討していきたい

**(委員)** 自己評価委員会についてどのような集まりなのか。

**(学校)** 越谷保育専門学校自己評価委員会規程があり、学科長、学科主任、教務係、事務長、その他校長の指名する者で構成されている。

#### 2-6-1 意思決定システム

**(委員)** 意思決定システムについての課題についてどのように工夫しているのか。

**(学校)** 17名の教職員のコミュニケーションを図ることが大事である。会議は毎週月曜の朝に直近の課題とその対応についての情報の共有し、さらに、月1回の職員会議等を行っている。運営委員会も月1回開催し、出来るだけ職員意思を集約しながらまとめていきたいと思っている。

**(委員)** 意見を引き出すときの方策はありますか。

(学校) 職員の人数が少ない分、職員の意味疎通は取りやすいと思う。  
何かあれば、関係者で集まり、適宜対応している。

### 基準3 教育活動

#### 3-8-2 【学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか】 評定3

(委員) 課題について、効果的な個別指導をどう進めていくか。

(委員) 入学者数を見ると3年前から減少している。定員100人に対して68人であり、選べない状況の中で学生を入れてしまったということは入学前の力の差や入ってからの差もある。二極化にどのように対応していくのか。授業だけでない以前の問題もある。どのように対応しているのか。

(学校) 知識に関しては入口の時点で差があるが、技術に関しては練習することで追いつける。意欲の部分についてはスポーツ大会等の行事を行うことで気持ちが学校に向いたりクラスメイトとコミュニケーションがとれて積極的に授業に参加するようになるなど、有効的である。個別指導の具体策についてはピアノのような技術に関するものについては練習したことでの習得というのは目に見えて力がついてくると思う。

一番難しいのは、学生にやる気をおこさせる部分である。専門学校は資格を取りたい学生が来るものであって、ただし定員があって100名を超える受験生がいない中でほとんどの方が入学してしまうとこの差が出てしまう。いただいた意見を真摯にうけとめ、学校内でできる気持ちの問題としてのやる気、技術的なものに関しては練習を怠らない、知識については検討の余地がある。

(学校) 入学生の中には高校生の他にハローワークからの紹介である委託訓練生がおり、年齢層は10～50代と広く、社会経験が豊かな学生もいる。いろいろな社会経験、学歴を持った方が一緒に入って学ぶので、学習内容が分かる学生もいれば、まだまだという学生もいる。専門学校の特性上、年齢の幅が広いことで対応に十分答えられないところもある。昨年には2年の幼稚園実習でピアノができないことで実習中断になった学生がいたり、実習記録日誌が書けない学生が2年生にいた。本人の責任と学校の指導に課題はあるかと思うので、反省を活かして今年度指導していきたい。

(委員) サークル活動については、どのようなサークルがあるのか。

(学校) るりこ(人形劇)、園芸、卓球、美術の4つのサークルがある。

(委員) サークルのような授業以外でも興味を持つようなことを行うと良いのではないかと

(学校) サークル活動も継続してやっていきたい。ただし委員会や保育祭の会議、準備、オペレッタの練習などで忙しく時間がとれない学生もいる。

#### 3-9-3 【キャリア教育を実施しているか】 評定3

(学校) キャリア教育の充実ができていますがまだ改善できる部分があるのではないかと  
いうことで評定3にしている。

#### 3-9-4 【授業評価を実施しているか】 評定3

(学校) 授業評価を行っているが、PDCAサイクル(典型的なマネジメントサイクルの1つで、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)のプロセスを順に実施する。)を活用して次に繋げるところに課題があるため、評定3としている。

(委員) PDCAサイクルがどの程度授業の改善に図っているか詳しく聞かせてほしい。

**(学校)** 全体としての取組ができていない。授業アンケート集計後、資料にして授業担当者に配布し、学生がどのように評価しているか、項目は20以上細かくあり、データを見ていただき、より良い授業にさせていただく。授業担当者全員が同じようにPDCAサイクルの評価を活用ができていないか、授業担当者に、その後は、任せているのが現状である。

**(委員)** 授業アンケートは毎年行っているのか。

**(学校)** 授業終了後、前期、後期ともに実施し、講師会でまとめたものを渡している。

**(委員)** アンケートは無記名だと思うが、厳しい意見も出ているのか。

**(学校)** 本校は記名式にしており、理由としては責任をもって回答してほしいという学校の考えからである。学生には誰が書いたかは、授業担当の先生には分からないようにすると伝えてある。厳しい意見もいくつかあるが、授業内容についてではなく、好き嫌いで厳しくしているという内容の場合もある。自由記述欄では偏りがあり、すごく良いという学生もいれば授業ではなく先生に対して批判をする学生もいる。

**(委員)** 受け入れた以上は指導していかなければならないし、本当に良くしていこうと思えば厳しい意見も取り入れていかなければいけない。

**(学校)** 他大学では冊子になって出ているところもある。記名式については自分に自信がないのか、批判をする人の中には無記名が多い。また、本校にはいろいろな経歴の人がいるが、成績が劣る人は高校新卒の人だけではない。

**(学校)** 授業アンケートについては、教員にフィードバックしていくという面では足りないところもある。授業担当者を変えてほしい等の意見があれば、アンケートを基に話すこともある。授業アンケートのやり方や記名方法も含めた方策を変えていかなければならない。

同じ批判があるのに何年も同じ授業を行っている教員については、今までのデータの積み重ねを基に迫る段階に来ている。授業改善につながっていない。

どこの専門学校でも研究紀要を出すようになり、授業のことを書いている内容が多い。研究紀要を参考にすると、授業に対するヒントが散りばめられている。

**(委員)** 授業を教員は見ていますか。

**(学校)** 廊下から授業を見たり、授業によっては教室に入ることもある。

**(委員)** ある学校では指導案を書かせてそれに基づいて授業を行い、ビデオを撮ることで意識が変わったらしい。

**(学校)** 学校の外部の人に授業を見ていただき、同時に、校内の教員同士が互いの授業を見ることのできる公開授業週間等を設け、実施していきたい。

**(委員)** 授業アンケートは教員のプライドもあり難しい部分もある。勤務評定の一環として使われると気分の良いものではないが、密室ではなくてお互いがオープンにするのは、良いのではないか。

学生たちも前期の終わりに全教科アンケートを実施となると項目が同じなのでマンネリ化してしまうのではないか。全教科毎回実施する必要があるのか、年度を空けて行うのか、先生から希望を出してもらいその先生が学生たちに聞きたい質問項目で個別にやるのか。

少ない人数でアンケートを実施すると記名であれ無記名であれ、教員からすると誰のアンケートか分かる。アンケート自体、検討する必要もあるのではないか。

**(委員)** アンケートを実施してフィードバックして授業改善していく。PDCAサイクルを回転させるためには、毎回は難しいと思うが、例えばアンケートを実施後に改善して3か月後どうなったか。回転をさせていかないとフィードバックは出てこない。

<p>(学校) 高校の現場ではいかがですか。</p> <p>(委員) 学ばない教員というか次に進もうとするステップを端折ってしまう教員がいるのでいろいろな形で刺激というか情報を伝える。</p> <p>私は授業観察を学校経営の根幹だと思っている。先生方が自己評価シートを書くので、授業に関する内容を記入して、授業見学の際に、授業の目標と方策に対して授業で確認ができた内容を書く。雑感を書くとも全部で1,500～2,000字くらいになる。それを厳封して教頭先生に渡して、それから、教頭先生から当該の先生に渡している。</p> <p>3年前には定員割れをする学校であり、授業評価も良くない中で先生方の中に見えた工夫点を伝えて行った。年間書き溜めたものを県の教育委員会の高校教育指導課に持って行って全部見てもらった。授業研修週間の最終日に来てもらって先生方の良い点を褒めてほしいということで昨年初めて実施した。先生方の反響が良くて県のお墨付きがつくような指導主事からのお褒めの言葉があったので、先生方がさらにやる気になった。</p> <p>また、再任用の先生のアクティブラーニングがとてもいい授業を行っている。今回6月22日に2回目を実施したが素晴らしかった。生徒の授業評価も年々ペースが上がっている。</p> <p>生徒数810数名の学校なので保護者に伝わる。今回の入試倍率を見ると保護者のロコミで0.95⇒1.08⇒1.19と、ここ3年で倍率が上がってきた。保護者からの推薦があつて越谷東高校に行きなさいとロコミの中から生まれしてきた実感がある。学校経営の根幹は授業評価であると位置づけて3年間取り組んでいる。</p> <p>新年度スタートの時に先生方に学年や分掌問わず、個人としてこの学校に対する課題を無記名で募った。項目別に分けて学校経営に関する共同参画というか先生方も一緒になって、考えてほしいという思いから、学校スローガンを作り上げた。</p> <p>アメリカなどの経営の話を知ると、組織のミッションを共有しているのは全社員の3割、その3割の5人に1人が実践をしている。トップダウンできているミッションや方策が影響しているのではないかと思う。</p>
<p>3-10-2 【作品及び技術等の発表における成果を把握しているか】 評定2</p> <p>(学校) 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等の把握については出来ていない部分があるため評定2としている。</p>
<p>3-11-2 【資格・免許取得の指導体制はあるか】 評定3</p> <p>(学校) 本校はほとんどが必修科目であり、短大等と違い基礎資格がないため卒業しないと基礎資格が得られない。基礎資格を得て免許と資格が取得できる学校なので、不合格者というよりは退学や休学者の指導の問題があるため評定3としている。</p>
<p>3-12-2 【教員の資質向上への取組を行っているか】 評定3</p> <p>(学校) 概ね問題なし</p>
<p>3-12-3 【教員の組織体制を整備しているか】 評定3</p> <p>(学校) 概ね問題なし</p>



#### 基準4 学修成果

##### 4-14-1 【資格・免許の取得率の向上が図られているか】 評定3

(学校) 休学や退学者が多いため評定3にしている。

#### 基準5 学生支援

##### 5-16-1 【就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか】 評定3

(学校) キャリア教育も内容を変えて良いものになってきている。昨年の反省を踏まえ、今年は参加する学生の態度が違う。キャリア教育の充実を感じている。キャリア教育は、就職支援のようになってしまいが、5年後10年後先の自分を見据えて職場を決めて、いこうと取り組んでいる。

##### 5-17-1 【退学等の低減が図られているか】 評定2

(学校) 評定2の理由は退学者の数が多からである。平成28年度は23名になっており、退学率が高い。ここの数字を5%以下にしたい、達成できればここの評価は上がる。

(委員) 自分の居場所を作ることが大きなやる気の力になる。一人ひとりの学生につくってあげればいいのではないか。

(委員) 心理カウンセラーは、学生とどれくらい関係性があるのか。相談に、行ってみようと思う学生もいれば、行けない学生もいる。

(学校) 担当者は心理学の授業を担当しており、1名は常勤、1名は非常勤、男性1名、女性1名。退学者の理由は進路変更が多い。なかには、平成26年度入学生(残留学生)は、休学の後に、復学せずに、退学に至っている例もあった。

(学校) 今年は辞めた学生については、退学に至った指導経過を記録し、当該高校の進路指導の先生に、報告をしている。

##### 5-18-1 【学生相談に関する体制を整備しているか】 評定3

(委員) カウンセラーの個室については準備できたか。

(学校) 用意してすでに使用している。

#### 基準6 教育環境

・特になし

## 基準7 学生の募集と受け入れ

(学校) 入学生が減った理由については本校にも原因があると思うが、3月時点でのリクルートの調査によると保育分野を志望する生徒数が昨対比で初めて減った。介護分野ですら昨年対比で微増しているにも関わらず教育分野が減っている年であった。

あるブログでの「保育園落ちた」という言葉による影響で、マスメディアで保育士の待遇がクローズアップされ、高校訪問先の先生からだけでなく、学校によっては保護者の方から子どもが保育士を目指しているが大丈夫だろうかという声ができるようになった。

こういう影響もあり、保育希望者が全体的に減ったのではないか。近隣の養成校の中で定員充足したのは道灌山学園保育福祉専門学校、竹早教員保育士養成所だけと聞いている。近隣の短大ですら定員を集められていない現状のようで、本校含めて全体的に昨年度は厳しかったと感じた。

(委員) 現状は概ね9時～5時の5日間を2年間行っていると思うが、思い切って時間帯を変えたり、2年制を3年制に延ばす、土日に授業を行うなど考えられると思う。

私が関わっている地域型の小規模保育園やスポーツクラブでは、保育士になりたい社員がいるが、一般的な社会人と同様に、学校には行けないので通信教育を検討している。

実際に、私が関わっている3人が独学で勉強したが、何回も保育士試験に落ちた。

なぜ通信教育に頼らざるを得ないかというと、行く学校がない、家庭もある。いろいろな問題をクリアしなければならない。授業の時間帯の変更も検討していただきたい。

7-26-2の【入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか】評定3

(委員) 授業の方法の検討について組織的に取り組めていないため、評定3としている。

## 基準8 財務

・特になし

## 基準9 法令等の遵守

・特になし

## 基準10 社会貢献・地域貢献

・特になし